グループホーム げんき

（別 紙） 作成日 平成 26 年 3 月 28日

【 事業所概要（事業所記入） 】

事業所番号	2090500048		
法人名	特定非営利法人 心		
事業所名	グループホーム げんき		
所在地	飯田市座光寺3601番地12		
自己評価作成日	平成25年12月30日	評価結果市町村受理日	平成26年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/20/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2090500048-00&PrefCd=20&VersionCd=022

【 評価機関概要（評価機関記入） 】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	飯田市上郷別府3307－5
訪問調査日	平成26年1月22日

【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入） 】

当ホームは一切の制約がなく、今までの生活の延長での日々を過ごして頂いています。各利用者の要望を伺い、特に楽しみにされている食事については満足頂ける味と量を提供しています。ご希望に添い、毎日の入浴も可能です。今は地域の方との関係を密にすべく、働きかけをしており、少しずつ成果が出ているところです。

【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入） 】

昨年度職員会議で共通理解し、「共に笑い・共に楽しみ・共に悲しみ・共に生きる」と理念を一新してきた。その底に流れている思いは、利用者と一緒に喜怒哀楽の生活をしていくことにあると、語っている。

利用者は、野菜中心であるが嗜好重視の食事をし、少々漏らすことなど気にせずトイレを使い、自分の希望に合わせて入浴することができ、四季折々や行事のたびに外出や外食を楽しんでいる。その姿を穏やかにと見守り、支えているのは、管理者を中心とした次のような職員たちである。「…はしてはいけない」という否定的な言葉遣いをしないで、利用者の良い点を見つけて家族に伝えているのである。そして、徘徊してもさりげなく一緒について行き一緒に戻って来る、最後には家族の一員として看取りまで行っている素晴らしい職員たちである。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名（ 西 ）

	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の２/３くらいの
			③利用者の１/３くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	①毎日ある
			②数日に１回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の２/３くらいが
			③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の２/３くらいが
			③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の２/３くらいが
		○	③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の２/３くらいが
			③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の２/３くらいが
			③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない

	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の２/３くらいと
			③家族の１/３くらいと
			④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（11,12）	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の２/３くらいが
			③職員の１/３くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の２/３くらいが
			③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の２/３くらいが
			③家族等の１/３くらいが
			④ほとんどできていない

（別　紙）

自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況（太枠囲み部分）」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を意識し、定例会議（職員会議・ケア会）にて共有。実践に向け、具体策について意志の統一を図っている。	理事長が変わり、新しい理念（共に笑い・共に楽しみ・共に悲しみ・共に生きる）を立て、基本方針のもとに、毎月の職員会議やケア会を通して職員との共有を図り、実際の介護の場面で活かすことができるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や庭の手入れ時に近所の方と会話したり、地域の行事参加（節分の豆まきや夏祭り）も取り入れている。	自治会に加入し、地域の行事に積極的に参加している。そして、散歩などの時に挨拶を交わしたり、「げんき通信」を渡したりし、また、野菜や花などの差し入れをしてもらったりして地域の方々との交流を広げている。その結果を「ご近所マップ」にまとめ、活用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	保育園との交流会や、短大生の実習、中高生の体験学習を取り入れている。また、ご近所の方に介護や認知に対する相談受付の声掛けも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に一度、家族代表・民生委員・地域包括職員出席により会議を開き、グループホーム内の状態をお伝えし、意見やアドバイスを頂き、取り入れている。	毎年奇数月に、家族代表・民生委員・包括職員の参加を得て、運営推進会議を開催している。状況報告だけでなく、敬老会に参加していただいたり、食事会をしたりして、グループホームの実態をよく知っていただくように工夫している。	自治会に加入しているので、その地域の方を運営推進会議のメンバーとして迎え入れ、さらに地域との結び付きを広げていくことを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所連絡会やグループホーム連絡会に出席。情報の共有を図り、協力体制を築いている。	運営推進会議には包括職員に参加していただいて、グループホームの状況をよく知っていただくようにしている。包括職員の取りまとめで、昨年11月に地域で「おまめで体操」の講習会を開くことができた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定例会議（職員会議・ケア会）を通し、職員の理解を深め、拘束のない介護に努めている。	全職員が職員会議やケア会で身体拘束のない支援や虐待防止について話し合い、実践している。徘徊する利用者にはさりげなくついていき、話をしながら一緒戻ってくるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定例会議（職員会議・ケア会）を通し、職員の理解を深め、日常的に話し合いを持ち、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関する研修会等に積極的に参加していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前のアセスメントやその後のご家族との連絡等、将来に向けての重度化やターミナルケア、緊急時の医療連携についても説明、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とのコミュニケーションを図り、情報収集に努め、日常のケアに活用している。	面会時や一時帰宅の送迎時には、家族とのコミュニケーションを十分とれるように努め、意見や要望を引き出すようにしている。運営推進会議には家族代表が参加して、一緒に話し合っている。	アンケートなどを行ったりして、さらに利用者や家族の意見、要望が出やすい場を設定することが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や、日常業務の中で、意見交換し、反映させている。	職員会議やケア会で、職員から行事に関する意見や、ケア面では他の職員から個人対応への思いなどが多く出される。また、職員間の雰囲気が良く、先輩を頼りにして話掛けてきたり、個々にも相談したりしてくる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部情報を公開し、職員の自己研鑽を進め、納得して働ける職場でありたいと取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加、業務中での指導等、職員の状態によりスキル向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会を通じ、情報交換や勉強会を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人との面談を重ね、ご家族からも情報を頂き、不安を取り除いて頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面談させて頂き、要望等がどこにあるのか理解し、信頼関係を築いて頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族等に対し、より良い支援に向けての柔軟な対応をさせて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に日々を過ごす者同士として、楽しみや悲しみを分かち合える事に重きを置いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを理解し、ご本人を共に支えて行ける対応に留意している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の生活歴に基づき、これまでの関係を保って頂けるような支援に努めている。	知人や友人の訪問や、生まれ育った所への再訪には支援を惜しまないようにしている。また、お正月やお盆の行事の時には、一時帰宅を勧め、本人のこれまでの関係やつながりを大切にした支援を続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の会話も多く、職員が広い視点において見守り、孤立しないよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係を切ることなく、必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の毎日の暮らし方の希望、意向の把握に努め、困難な場合はご本人本位の生活が送れるよう時間を掛けて対応している。	本人との会話を大切にし、会話ができなかったり、足りなかったりする時には、日常生活の様子や表情から希望や意向をくみとるようにしている。また、センター方式の「私の姿と気持ちシート」を担当者が記入し、職員が再確認し、共通理解ができるように工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人またはご家族からの情報収集により把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人との会話、関わりから現在出来る事、全体状況の把握に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員で情報を交換、共有しその人にあった介護計画書を作成している。	認定情報や医療情報、アセスメントシートなどを基にして介護計画を作成している。そして、3か月に1度毎日の個別記録を基にモニタリングを行い、介護計画の見直しを進めている。毎月のケア会などで振り返り、本人の状況変化に応じた見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や日誌等を利用し、職員間の情報共有に努め実践や介護計画に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リハビリやマッサージの提供、緊急時の医療連携も確定している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源把握の為、民生委員等と意見交換出来る場を設け、ご本人の安全な暮らしの支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を尊重し、かかりつけ医との関係を大切にしている。受診、通院はご家族か、ご家族の希望に添って職員が代行している。	毎月1回、協力医が往診し、利用者の健康管理を行っている。また、かかりつけ医（ほとんどの利用者は協力医）との関係を大切にし、看護師とも連携して情報交換している。家族との受診が原則であるが。希望、要望によって職員が代行し、その結果を連絡することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師と職員との連携を取り、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師との情報交換に努め、可能な段階で早期退院が出来るように協力体制を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常日頃からご本人やご家族の思いをお聞きしており、時期をみて主治医と方針を決め、職員で共有する体制を取っている。	ターミナルケアについては、入所時にマニュアルに基づいて利用者と家族とで話し合っている。終末期に近づいて来た時には、医師と連携して確認し、終末期には家族と毎日連絡を取って指示を受けるようにしている。職員にも共通理解を得て、本年度は1人の看取りを行った	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議において、急変時、事故発生時の初期対応について話し合いをしており、定期的に訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルに沿った点検表を作成し定期的に点検している。地元の消防団、管轄の消防署の指導、協力の下、消火訓練、避難訓練を行っている。	全室スプリンクラーを設置し、防災設備を整備してきた。5月には消防署の指導の下、消防団の協力を得て布団を担架にして実際に即した避難訓練を行った。また、9月にはこれまで行われていなかった夜間訓練を職員を招集して行った。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳やプライバシーを大切にした対応や声掛けに留意している。	利用者に対応する時には留意して、「…は、してはいけない」などと言う否定的な言葉遣いをしないようにしている。また、家族には問題行動を伝えないようにしている。家族に「迷惑をかけている」という思いを抱かせないで、職員間で解決することを大事にしている。そして、良かったことだけを話すようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の自己決定、表現を表出できる環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員はご本人の生活リズムを尊重し、その人らしい暮らしが出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院の利用や衣類購入の外出等、身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と一緒に作った野菜を収穫し、それを調理して、一日の食事を大切な活動としている。	地域の方に教えていただいた野菜作りを利用者と一緒にして、収穫した野菜を食材にしたり、毎日の献立が重ならないように工夫したりして、野菜が中心で嗜好重視の食事（重度化の利用者を除いて）を行っている。利用者はできる範囲で職員と下ごしらえや盛り付けをしたり、お茶を入れたりして楽しく会食していた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者各自の状態を把握し、野菜中心の献立により、おいしく食べられるよう、味付けしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアへの声掛けを行なっている。必要とされる方には職員による介助をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員による、排泄状況の観察、把握に努め、ご本人の排泄パターン、習慣に合わせた支援を行っている。	ほとんどの利用者は布パンツにパットを使用している。濡れないように声掛けをするのではなく、自分で立ってトイレに行く時に対応するようにしている。そして、濡らしてしまったら洗濯すればよいと気楽に考えている。利用者の中には、夜間はポータブルトイレを利用する方もみえる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日リハビリ体操、運動を行い、食事は水分、野菜の摂取を重視し、便秘予防に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望を伺い、週3回を目安に支援している。	毎日入る人、1日おきに入る人、中2日で入る人がいたり、拒否する人や足浴を行ったりする人、浴槽内で体を洗う人がいたりして、利用者一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を勧めている。また、リフト入浴ができる設備が整っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常の様子を観察し、休息や着床の声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の個別リストを作り、職員の理解を深め、服薬支援と症状観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々、楽しく過ごせるように一人ひとりの状態を観察し、生活支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って外出支援をしている。又、四季折々の行事（花見、紅葉狩り）、ご家族もお誘いしての焼肉会なども行っている	近所に元善光寺があり、その近隣の庭や花など見ながら散歩を行っている。また、外に出れない時には室内で外出する時より多めの体操を行っている。四季折々には花見・藤の花見、紅葉狩り・葡萄狩り・柿とりなど行ったり、誕生日に合わせて外食したりして楽しんでいる。また、庭先でお茶や食事をして日々の生活に潤いをそえている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により買い物支援を積極的に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりは、自由にして頂けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃、花や観葉植物の設置などご利用者と共に行っている。又、借りた畑で野菜の栽培も一緒に楽しんでいる。	玄関に続く居間兼食堂は広々としていて、また、畳の間もある。そこでは、利用者が一緒に食事をしたり、テレビを見たり、利用者同士で語り合ったり、時には昼寝をしたりすることができ、楽しく、ゆったりできるような配置がしてあり、明るい雰囲気を作っている。ただ、冬季は底冷えするので十分な暖房に配慮したい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室での時間を大切にしてもらい、ホールでのご利用者同士の会話を楽しんで頂けるよう支援する。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活歴を尊重しご本人に合わせて馴染のタンス等を使用して、居心地よく過ごして頂けるよう配慮している。	なるべく利用者が自分だけの時間を持って過ごすことができるように、それぞれの居室は思い思いの家具や持ち物を持ち込み、思い思いの配置ができるようになっている。畳の居室であったり、テレビを持ち込んだり、暖房器を入れたりして気楽に過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレは手すりを配置し安全に気を配っている。歩行器、杖等、ご本人のレベル維持の為取り入れてる。		